

2003年度  
活動・会計報告

---

Global Community Interaction



**地球市民交流会**

連絡先

地球市民交流会 (GCI)

東京都荒川区南千住 1-13-20VC 気付

<http://gci.nngo.jp/>

# 国際部

## ○派遣通訳

在日外国人および帰国者への、行政機関・医療機関など各窓口での対応をはじめとした日常生活支援、教育現場での付き添いや学校との連絡などの外国籍児童支援、団体もしくは個人が催す国際交流・協力を目的とした非営利の事業支援などに対して、必要言語・必要数の通訳ボランティアを現地まで派遣するというもの

- ・実施期間：2003年4月～2004年3月
- ・実施場所：東京都(主に23区内)および近郊
- ・活動目的（通訳規定第2条）
  - (1) 地域社会で生活する上で言葉の障害のために困難な状況にある、在日外国人や帰国者たちへの日常生活の支援
  - (2) 定住者と来日者間の人的交流を通して、当事者のもつ不安の解消などの心的援助
  - (3) 同主旨の市民団体または個人の催す非営利活動の支援
- ・活動拒否項目（通訳規定第5条）
  - (1) 依頼内容が、法を犯す恐れがある等、公序良俗に反する場合
  - (2) 依頼内容が、商談または営利目的の場合
  - (3) 依頼内容が、医療、法律等、特別専門分野に関わる場合
  - (4) 依頼内容が、団体理念にそぐわないと判断した場合

## ○在日外国人のための税金セミナー

- ・開催日：2004年1月25日／2月22日
- ・会場：としまボランティアセンター

東京は日本最大の外国籍住民が暮らす地域であり、ここ数年だけでもその人数は上昇を続けています。行政による各種生活相談や専門家相談・説明会なども開催されていますが、様々な言語や背景をもつ外国籍住民が行政サービスを受けることに不慣れな場合もあることから、彼らの生活上の問題に対応しきれていない状況にあります。

そこでG C Iでは在日外国人の生活支援を行っていくという立場から、これらの問題解決の第一歩として、専門家による税金セミナーを開催しました。



協坂税理士の税金講座

# 国際部

## ○日本語の時間「J L A P」

J L A Pは在日外国人を対象に日本語による会話のサポートを行っております。

数多くの外国人が参加して日本語によるコミュニケーションを練習しました。

地域に住む在日外国人や帰国者たちが、日常生活に必要な会話力を維持・向上するために定期的に開かれた日本語練習の場です。（日本語教室とは異）

日本語会話の場であると同時に、地域の日本人にも多文化に触れる機会を提供し、語学、文化交流を通じて互いの歴史認識の違いを乗り越え、真の友好へと繋げて行こうとしています。

- ・実施期間：4月から翌3月までの第2、第4日曜日の午後3時から午後5時
- ・実施場所：豊島区（一部、荒川区）

年間実施回数：全24回	活動者 (補助者)	受益者 (練習者)
年間出席者数	延187名	延131名 (内、韓国学生58名)
平均出席者数	9名	5名 (内、韓国学生2名)

出席優秀者(第1位)  
J O S H I 氏 42%

## ○新春カルタ大会 (イベント)

- ・開催日：2004年1月11日
- ・会場：としまボランティアセンター
- ・参加者：22名（日本語ボランティア・留学生・就学生）

日本語練習者に対し、日本の伝統的文化であるカルタを通して、日本文化への理解を深めることを目的として開催しました。



東・西・南アジアからの学生たちによるカルタ大会の様子

# 対外支援部

対外支援部は、昨年の「アジアから地雷をなくそう！キャンペーン」から、「難民支援」というテーマに変更し、一年間取り組んだ。難民についての基礎知識も乏しかったメンバーは、様々な文献を通して難民について勉強していった。年度始めは、内部の勉強会や研究発表を定例会で行い、最終的には「シエラレオネの難民支援」を2003年度の対外支援部テーマに決定した。月に二回しか行われない定例会では、時間が有効に活用できず、意見をまとめるのに非常に困難であった。難民という問題は、一言には片付けられない、極めて複雑な国際問題である。対外支援部では「難民の支援」が目標で活動してきたが、難民問題は一筋縄ではいかない問題であった。物理的に考えてみても、地球の反対側にいるシエラレオネ難民に、私たち対外支援部メンバーができることはごく限られた支援であった。文化祭にて行われる予定であった「シエラレオネの難民」についての研究発表は実現せず、私たちが行った一年間の研究の成果は社会へ発信されなかった。そこで、一年間に渡った対外支援部、「難民支援、シエラレオネ難民について」の研究内容をまとめた報告書を作成した。

## ○難民支援

- ・実施期間：2003年4月～同年6月
- ・支援対象：シエラレオネ国内被災民

※治安改善が見込めず現地入り断念

## ○学習会

1. シエラレオネの現状についてのレポート作成

作成者：学生ボランティアスタッフ一同

2. 来日難民による講演会

日程：2003年6月6日

会場：東京ボランティア・市民活動センター

講師：SANKYAW 氏（ビルマ民主連盟社会福祉部長）

### 反省点

- ・年度始めのメンバーと年度終わりのメンバーが総入れ替えしたかと思われる程、変化したこと（いつも同じメンバーではなく、入れ替わりが激しい）
- ・一年間やってきたことについて、全て勉強不足、準備不足、企画不足、行動不足であった
- ・「難民」という巨大な問題について体当たりするという姿勢で挑んでしまい、素人考えで活動してしまったこと
- ・研究内容を外に発信できなかったこと
- ・イベントなどを行わなかったため、メンバーのモチベーションが低下し、ポテンシャルを最大限に活用できなかった
- ・テーマ決定が遅かったため、出足がまばらであった
- ・定例会では見学者や入部希望者にGCIの概要をしたために、上手く時間を活用できていなかった
- ・企画倒れが数多く、最後に形として残ったものはないこと
- ・問題については話し合うが、解決案を導き出せなかった、または導き出すのに時間がかかったこと
- ・リーダーの総責任意識が不足していた

## ○現地調査

実施期間：2004年2月～3月

実施地域：カンボジア王国シェムリアップ市

目的：

- ①カンボジアを知り、カンボジアに親しむ
- ②現地特産品等で日本に人気のあるものを調査する
- ③地雷についての知識を深める
- ④現地の孤児院を訪ね、子供たちと親睦を図る

### ーその他 継続活動ー

インド北西部復興支援「DOST」  
2001年1月26日発生のインド北西部グジャラト州大地震による被災者支援を目的に当時高校生ボランティアたちによって発足されたプロジェクトです。同年12月までに援助物資と義援金を現地まで送り、一部を除いて翌年3月をもって終了されましたが、現在は郵便振替による「DOST100円募金」のみ継続中です。

プロジェクト発足当時日本国内では三宅島噴火と時期が重なったため、ほとんどの国内団体からは対象外となり、月日の経過とともに人々の記憶も薄らいでいるため支援活動はきわめて困難です。

・2003年度「DOST100円募金」総額：〇円

# 企画部

## ○子ボラ・プロジェクト

2003年の夏、荒川ボランティアセンターからの依頼により地域の子どもたち（小中高生）をボランティアとして受け入れ、韓国（朝鮮）学生たちと日本語やハングルを共に学び、おたがいの文化を紹介するために、それぞれ自分自身の文化について、もう一度、見つめなおすという企画を実施しました。相手を知るといことは自分を知るといこと。おたがいを理解することから、心のふれあい、交流がはじまるということ、未来の社会を担う子どもたちにも知ってほしい・そんな思いから取組んだ企画でした。このサマーボランティアに参加した子どもたちのうち数人は、今でも時々、豊島ボランティアセンターで行われているJLAPに足を運んでくれています。

- ・実施期間：7月から翌1月までの第2、第4土曜日の午後3時から午後5時  
(ボランティアは14時より活動開始)
- ・実施場所：荒川区（一部、台東区、北区）

### ※夏休みの実施イベント

- 8月2日：韓国（朝鮮）学生たちによる自国文化紹介と民族衣装試着
- 8月9日：韓国（朝鮮）学生たちによる自国の簡単な軽食づくり体験と試食会
- 8月16日：日本の下町散策&伝統工芸館見学→浅草
- 8月23日：日本風お茶会と和菓子試食

期間を通して：韓国人就学生によるハングル講座



子ボラプロジェクト（中学生の部）



子ボラプロジェクト（高校生の部）

# 企画部

## ○ハンゲル講座

荒川区ボランティアセンターにおいて、定例会に合わせて「ハンゲル講座」を数回にわたって実施しました。講師を招き、「あいさつ」「自己紹介」「日常会話」など、すぐに使える言葉から参加者の興味のある分野まで幅広く勉強していきました。

多くの方は初めてハンゲルに触れる機会でありましたが、子供ボランティアを含め、みな真剣に講座を聞いていました。講座の中で参加者が実際にハンゲルでの自己紹介をするなど、ただ聞くだけの講座に終わらず、より身近にハンゲルを感じる事が出来、ハンゲルに対する興味をさらに深めました。ハンゲル講座の後、独学でハンゲルの勉強を始めた方もおり、今後もこの企画は続けていく意義があると考えます。

- ・実施期間：4月から翌2月までの第2、第4土曜日の午後3時から午後5時
- ・実施場所：荒川区



# 企画部

## ○沖縄平和学習

この企画は、様々な国の人たちと共に、沖縄の問題を考えることによって、国際交流・協力の意味を参加者一人ひとりが見つめ直すことを目的として実施しました。日本国内のなかで、最も大きな戦争被害をうけた地域である、沖縄の現状―県内に多くの戦跡が残っており、また多くの軍事施設を有している―を知り、平和や戦争について、リアルに突きつけられる日々を過ごしている沖縄の人々の思いや考えにふれることに重点を置きました。

### 1. 沖縄平和学習会（2003年10月～2004年1月の週末に実施）

※テーマ ～「ひと」から沖縄を知る～

沖縄で生きてきた「ひと」たちのことばから、沖縄で生きていこうとする  
「ひと」たちのことばから、私たち、一人ひとりが、感じとり、考える。

- ① 沖縄の自然、文化を知る ② 沖縄戦について知る
- ③ 軍事基地の島としての沖縄を知る ④ スタディツアー行程説明



### 2. 沖縄スタディツアー（2004年1月31日～2月1日の2日間）

上記の沖縄平和学習会の締めくくりとして、沖縄に実際におもむき、戦跡や軍事施設周辺などを中心に廻るスタディツアーを開催しました。ボランティアの人たちの手によって作られた大きな獅子像を間近に見て、素朴な陶芸の里を散策し、日本とアメリカの国旗を掲げた軍事施設を鉄のフェンス越しに見る、といったように沖縄の今の姿にふれるとともに、南部の慰霊塔や平和祈念館など今なお残る過去の戦争の傷跡を辿りながら、平和について参加者それぞれが改めて想いを抱く・そんな旅であったと思います。西太平洋最大の米空軍基地―嘉手納基地―の近くで、頭の上を飛んでいった戦闘機の、耳をつんざくような爆音を参加者たちは忘れることはないでしょう。

#### <見学地>

残波大獅子～読谷よみたんやちむんの里～楚辺そべ通信所（フェンス越しに見る）～嘉手納かてな基地（「安保の見える丘」から見る）～沖縄県立博物館～牧志公設市場～壺屋つぼや～平和祈念堂～韓国人慰霊塔～県立平和祈念資料館～平和の礎～魂魄の塔